

創造学報

Toyohashi Sozo University News

地域・職業教育・人間教育



2021.夏号
VOL.44

- P1——**特集1 地域の未来を創造する活動**
アソカ学園と連携—専門性を実践で高め、学びを深める
豊橋信用金庫の特別講義—ビジネスの現場から学ぶ
- P3——**特集2 地域の健康を支える活動**
新型コロナワクチンの職域接種(大学拠点接種)を実施
大学院健康科学研究科オープンラボ
豊橋市保健所との連携講座「カラダ喜ぶ健康講座」
- P5——研究室から／新任教員紹介
- P7——SOZOトピックス

保健医療学部看護学科2年「基礎看護技術Ⅱ」
皮下注射 筋肉内注射の学内演習の様子



豊橋創造大学

地域の未来を創造する活動

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部は、地域の明日を担う人材を地域で育てることを目指し、その一環として、地元企業・行政・関係団体と連携・協力し、独自の事業を展開。学部の特徴を生かし、地域の未来を創造する活動に取り組んでいます。

短期大学部幼児教育・保育科

専門性も実践で高め、学びを深める

●連携先／学校法人アソカ学園、社会福祉法人浜松児童福祉園

豊橋創造大学短期大学部は幼児教育・保育科において、授業の専門性を実践で生かし、学びを深めるために、地元の保育園や行政との連携に加え、静岡県浜松市の学校法人アソカ学園と、浜松市と磐田市の社会福祉法人浜松児童福祉園とも提携し、実習や共同研究、講演、互いの知財を生かす事業なども進めています。

当園との交流を通じて、体験と学びを深め、ともに成長することを期待しています

学校法人アソカ学園
朝元 百 理事長

保育の仕事を目指す 地元高校生たちをつなぐ

互いの知財を生かす事業として、7月8日、地元の高校で保育を学ぶ高校生たちとアソカ学園の保育者をつなぐ実践授業が行われました。アソカ学園からは、小楠志保さん、百合山ますみさん、豊岡知世さんの3人のベテラン保育者、高校からは保育を学ぶ生徒6人、さらに、同高校の卒業生で本学の幼児教育・保育科2年生の寺部響渚さんも参加し、一緒に実習体験をしました。

高校生たちは、自分たちで考えた”遊び”2つを、アソカ学園の保育者の皆さんに体験してもらい、実際に保育実習にいかすためには何に注意したらよいか、ひとつひとつにアドバイスをもらいました。



地元高校生に体験授業を提供

先進的な実践的教育の推進と豊かな人材育成のもと、互いの知財を生かしましょう

社会福祉法人
浜松児童福祉園
朝元 尊 理事長
本学幼児教育・保育科教授



保育者を目指す高校生たちに期待

本学との連携協定に基づいて行われた地元高校生のための体験授業について、「自分たちも楽しめ、高校生たちと触れ合えてうれしかったです」とアソカ学園の保育者の皆さん。「今回の体験が保育者になるきっかけになってくれたらうれしい。私も勉強になりました」「職場の先生たちの生の声を聴けることはいいことだと思います。今日の参加者が保育者になるのが楽しみです」などとそれぞれに感想を述べ、今後の連携事業にも期待を寄せました。



幼児教育・保育科、豊橋市こども未来部と子育て分野で連携

豊橋市こども未来部と短期大学部幼児教育・保育科は7月21日、本学で、「子育て分野における連携・協力に関する相互確認書」を交わしました。

豊橋市こども未来部の角野洋子部長は、「子育て支援を重点的に進めていくためには地域と一緒に取り組むことと、保育士の育成には中高生への魅力発信が必要」と述べ、本学との連携・協力で期待されました。

幼児教育・保育科の佐野真一郎科長は、

「保育者を養成する大学として、知恵を出し合い創造性を発揮し、さまざまな取り組みを行っていききたい」と意気込みを伝えました。

今後は、保育園・認定こども園の保育者研修への講師派遣、幼児教育・保育科の教員や学生向けの出前授業、中高生や保護者などに向けた保育の魅力発信などの取り組みを通じて、子育て支援に係わる人材の育成、子育て家庭の体験活動と親子交流の推進について相互に連携・協力してい

きます。



正課と連動した特別講義で、現場から学ぶ

●連携先／豊橋信用金庫

6月～7月、経営学部で3回、短期大学部キャリアプランニング科で1回、豊橋信用金庫から講師を迎えて特別講義を行いました。今年の3月に結んだ、地域の振興・発展と人材育成における連携・協力に関する協定書のもとに進められている事業で、「地域の課題解決において連携を強め、地域の明日を担う人材育成を充実させる」ことを目的に、正規の授業と連動して行われました。



豊橋信用金庫 理事・事業支援部長 宮川直樹氏

●経営学部 「経営戦略論」、「組織行動論」 「専門ゼミナール」で 特別講義を実施

「経営戦略論」、「組織行動論」の講義では、豊橋信用金庫の宮川直樹理事・事業支援部長が講師を務め、経営学部の学生たちが受講しました。「組織行動論」特別授業では、豊橋信用金庫のモチベーションアップの方法

を紹介し、その効果等について考察し、「何のために仕事をするのか、どうすれば意識が高まるのか」と学生たちに問いかけながら、ビジョンや使命を理解してもらうことの重要性を説きました。

「専門ゼミナール」特別講義は、同事業支援部の西郷鎮廣次氏が講師を務めて、これまで取り組んできた中小企業支援の現場について話しました。西郷さんは、「学生たちの社会に対するさまざまな興味が伝わってきました」と話し、「多様化する現場と教育をつなげる、地域と社会の橋渡しになれば」と思いを語りました。



同事業支援部 次長 西郷鎮廣氏

●キャリアプランニング科 「ビジネス実務総論」特別講義

豊橋信用金庫人事部の高橋まなみ副部長を講師に招き、「信用金庫の仕事と求められる人材像」をテーマにした特別講義が行われました。高橋副部長は、銀行と信用金庫の違いや制度的な特色などについて紹介したうえで、自分がどのように向き合ってきたかを話し「やる気があれば男性職員と遜色なくやっています。就職を考える時の参考になれば」と述べ、学生たちの未来に期待しました。



同人事部 副部長 高橋まなみ氏

2021年度生涯学習講座「市民大学トラム」開催

豊橋市教育委員会との連携による生涯学習講座「市民大学トラム」の2021年度連携講座が、6月5日、19日、7月3日、10日の4回にわたって開催されました。

6月に、緊急事態宣言が発出されたことから、オンライン開催となり、6月は、サテライト会場（豊橋市大清水まなび交流館「ミナクル」）のみで、7月は、受講者を入れた本学会場とサテライト会場で行われ、本学から同時ライブ配信されました。

今回、「市民大学トラム」のサテライト会場での開催は初の試みで、豊橋市教育委

員会の担当者は、「今後に向けてのモデルケースになれば」と話し、今後の市民大学トラムの新しいカタチを考えるきっかけとなる講座となりました。

今年度は、経営学部経営学科が担当し、統一テーマは「変革するビジネス社会を生き抜くために～マーケティング・企業経営からAIまで～」。経営学部経営学科の原木英一講師による「デジタル化とマーケティング変革～オンライン／オフラインの融合」、鈴木宏幸教授による「デジタル時代の経営戦略とその事例」、佐藤勝尚教授による「長



寿企業の条件」、早瀬光浩准教授による「人工知能（AI）の最前線～データがもたらすデジタル革命」の計4つの講座が実施されました。

地域の健康を支える活動

東三河で唯一の医療系大学として、地域の人たちの健康を担う事業を実施。働き世代のための公開講座「カラダ喜ぶ健康講座」の開催のほか、大学院健康科学研究科オープンラボで教育講座もスタート。新型コロナワクチンの職域接種(大学拠点接種)では、連携機関を通じて地域の人たちにもお応えしました。

大学院健康科学研究科オープンラボ、 教育講座スタート

本学大学院健康科学研究科の学修と研究科で取り組んでいる最先端の研究の一端を紹介する「健康科学研究科オープンラボ」の第1回教育講座が7月28日に開催され、理学療法学領域の研究に関する講座が行われました。

教育講座1では、後藤勝正教授による「生体機能の可塑性とそのポテンシャルの源」、教育講座2では、石田和人教授による「病態動物モデルを用いた中

枢神経障害に対する理学療法研究」の2つの講座がオンラインと対面を併用したハイブリッド方式で行われました。

「本研究科の教育研究活動への理解を深めていただくことを目的として企画しました。研究指導教員が行っている研究の一部に触れることで、知的探求活動である研究への興味と理解を深めていただければ」と健康科学研究科長の後藤勝正教授。



教育講座の対象者は、医療従事者、人々の健康に携わっている方、健康の維持増進に興味のある方、大学院進学に興味がある方や検討している方、その他、健康科学研究に興味がある方など。今後も理学療法学領域と看護学領域における講座を実施する予定です。

豊橋市保健所との連携講座 「カラダ喜ぶ健康講座」

豊橋市が健幸なまちづくり条例のもとに進めている健康増進活動の一環として、とよはし健康宣言応援事業、働き世代のための「カラダ喜ぶ健康講座」を本学で開催。地域のみなさんの健康増進のための活動に専門分野から応えます。

※新型コロナウイルスの感染拡大など、状況によっては変更・中止となる場合があります。

ます。HP等でご確認ください。

●第1回 8月31日18:30~19:50
「働くあなたの腰痛対策
～痛みのないカラダを目指して～」
講師／保健医療学部理学療法学科
後藤勝正教授



▲一昨年の同講座の様子

●第2回 9月28日18:30~19:50
「ストレス社会を生き抜く
健康な脳づくり～健全な体が
あなたのこころを守る～」
講師／保健医療学部理学療法学科
石田和人教授

豊田菜々美さん(キャリアプランニング科1年)が、豊橋わかば議会で所信表明



豊橋市をよりよくするために、若者委員が市の政策を提案し事業化を目指す「豊橋わかば議会」の若者委員20人(高校生から社会人まで)の一人に、本学短期大学部キャリアプランニング科1年生の豊田菜々美さんが選出されました。

6月28日に豊橋市議会議場で、委

嘱状の交付と所信表明がありました。

豊田菜々美さんは、「高校生の時、豊橋南高校応援団団員としてたくさんの方のそばで応援活動をさせて頂き、その活動のなかで1番大切なことは『人との繋がり』だと知りました。わかば議会では、出会った方との縁を大切に、若者の心をつなぎとめられるような政策を考え、委員として精進したいです」と決意表明を行い、最後に「自称豊橋市の応援団長」と宣言して応援エールをきり、他の若者委員たちの気持ちにも訴えかけました。

豊田さんをはじめ、自分の言葉で意気込みや思いを語る若者委員たちに

浅井由崇豊橋市長は「豊橋を魅力あるまちにしていくという強い思いをもって参加し、自由闊達な議論をしてほしい」と期待しました。

若者委員たちは10月下旬の提案事業の発表に向けて、議論やワークショップなどを行いながら活動。豊田さんも「積極的に参加していきたい」と意欲を示しました。



新型コロナワクチンの職域接種 (大学拠点接種)を行いました。



実施に至る経緯

6月3日、ワクチン接種に関する職域接種の要望確認についての連絡を受け、6月8日、伊藤晴康学長、保健医療学部長、看護学科長、事務局長、総務部長、学生課長による第1回打ち合わせを行い、職域接種を行うことを決定。同月16日に申請し、接種日は第1回が7月22日から25日、第2回が8月19日から22日となった。6月17日から学生・教職員に、ワクチン接種に関する意向調査を実施。事務局長たちは、豊橋市保健所での集団接種を見学し、会場設営に向けての準備を進めた。7月8日にディープフリーザーが届き、16日にワクチンが配送され、21日に会場を設営。22日から25日まで第1回ワクチン接種を、2回目接種は8月19日から22日に予定通り行った。

*8月2日時点で、全国162拠点で大学拠点接種が実施され、愛知県では本学を入れて6会場で行われた。東三河地域では本学は初会場となった。

企業や大学等において職域(学校等を含む)単位でのワクチン接種が可能となったことを受けて、国の方針を踏まえた新型コロナウイルスワクチンの職域接種(大学拠点接種)を行いました。

1回目のワクチン接種は、7月22日から25日までの4日間で、約1000人に接種を実施。カフェテリアを接種会場に仕立て、医師や看護師の免許を持つ本学の教員が問診や接種を実施。その他の教員や事務職員で受付や誘導を担当しました。訪れた接種希望者は3つのブースに分かれ、米モデルナ製のワクチン接種を受けました。

本学では、保健医療学部の学生の大多数が医療系学生向けの優先接種をすでに受けていることから、接種対象者を、経営学部と短期大学部を中心とする学生や教職員、藤ノ花女子高校の教職員のほかに、大学間連携に基づき豊橋技術科学大学の教職員に接種を行ったほか、市との連携で保育園・幼稚園などの関係者にも接種し、さらに近隣の企業関係者も受け入れました。

伊藤晴康学長

「保健医療学部の先生方が快く承諾してくれたことで、いち早く職域接種(大学拠点接種)を実施することができました。職域接種においては、自前で医療従事者等を確保しなければなりません。本学は、医師である保健医療学部の小竹伴照学部長を中心に、看護学科の先生方の協力を得て、万全な接種体制を整え、また、データ集計や会場設営においては、他学科の教員や事務職員などが協力しました。本学の学生・教職員のみならず、他大学や地元企業の皆さんにも接種でき、地域の健康を支える大学として貢献することができました」



保健医療学部 小竹伴照学部長

「教職員の方々や、事務職の皆さんとの協力により、地域の医療系大学としていち早く職域接種を行うことができ、地域のみなさんのお役に立つことができました。日々積み重ねてきたチームワークによって、大学の総力を発揮できたと思います」

看護学科 蔭田寛子学科長

「本学科の教員は看護職ではありますが臨床の現場から離れていることから、筋肉注射やアナフィラキシーについても改めて確認し、安全に接種するための準備をして行いました。看護職として協力でき、地域の皆さんにも貢献することができました」



高大連携事業「学びの探求フェスタ2021 in SOZO」開催

8月7日(土)は、高大連携事業の一環として、高校生が大学進学のための学びを体験する「学びの探求フェスタ2021 in SOZO」を開催しました。高校生や保護者約70人が大学の授業を体験しました。

講座は、地域で働くことを共通テーマに、「地域の暮らし」、「地域社会」、「社会連携」の3カテゴリー10講座を実施。「地域の暮らし」と「地域社会」の講座では、専門分野で活躍する本学の教

授らが講師を務め、「自分の健康を守ろう～病気の予防から看護の役割を考える」、「理学療法士として地域のスポーツ活動を支える」、「文系システムエンジニアの仕事～文系がIT業界で働くために」などの講座を行いました。

「社会連携」講座においては、豊橋鉄道(株)と(株)ユタカコーポレーションの担当者様による講座が行われ、地域で働くことはどういうことかを高校生と一緒に考えました。

今後も「地域の子どもたちを地域で育てる」という本学のビジョンのもとに、高校の学びと大学の学びを繋げ、様々な「学びの探求」の機会を提供していきます。



医療系、ビジネス系、幼児教育まで、
さまざまな分野の課題に向き合う研究室から、
5つの取り組みをクローズアップ。

●保健医療学部 理学療法学科

豊橋創造大学で学び 筋肉研究に挑む

骨格筋に着目して研究を行っています。これは私が豊橋創造大学の3年時、卒業研究で後藤勝正教授の研究室に所属した時から一貫しています。

卒業研究では、リハビリテーション手技の一つである電気刺激療法に着目し研究を行いました。ヘビ毒によって骨格筋を損傷させ、電気刺激を与えることで筋再生が促されるか検討しました。幸いにも研究成果を得ることができ、日本理

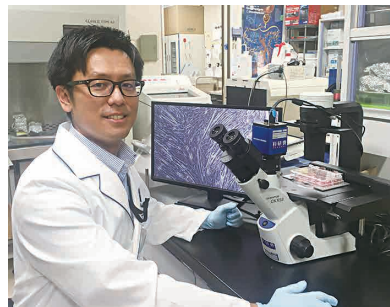
学療法学会で発表するという貴重な経験をさせていただきました。卒業後は、さらに研究を深めるため東京の大学院へ進学し、昨年度、本学に助教として着任いたしました。

現在も後藤教授のご指導の下、研究を進めています。主な研究テーマは「骨格筋肥大を引き起こすことができる刺激の探索」です。

この研究によって、高齢の方やケガを負った方でも、安全に、効率よく筋力増強ができる方法の確立を目指しています。今後も、リハビリテーションの発展に貢献できるよう研究を進めて参ります。

大橋和也

保健医療学部 理学療法学科 助教
豊橋創造大学理学療法学科一期生。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。一般病院、整形外科クリニック勤務を経て現職。



●保健医療学部 看護学科

看護領域における情報通信技術（ICT）の 活用を目指して

看護領域におけるICTの活用をテーマに、「看護基礎教育におけるeラーニングの教育効果に関する研究」、「電子カルテ情報の二次利用による看護の質的量的評価に関する研究」に取り組んでいます。

ICTの発展に伴い、医療現場や教育機関でのPCやタブレット型端末等の活用、遠隔診療・保健指導の導入、医療機器の高度化等が進展しており、看護基礎教育においてもICTを活用する

ための基礎的能力を養うことが重要だとされています。より高い看護実践能力の習得を目指して、動画教材を活用したeラーニングコンテンツの製作、教育効果の測定など、看護基礎教育におけるICT活用について研究を行っています。

また、データの具体的な内容だけではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質、またそれらを扱うための手法に着目して、看護記録などの医療情報を二次利用した看護ケアの過程

大塚和良

保健医療学部 看護学科 講師
修士(医科学)。西南学院大学助手、助教、姫路大学講師を経て、2020年4月より現職。



と成果の評価を可視化することにも取り組んでいます。

●経営学部 経営学科

デジタル時代の戦略を踏まえて スタートアップを考える

デジタル時代の本格到来、デジタルを活用したイノベーション、斬新な事業形態の誕生など、今日のビジネスは、経営戦略/事業戦略もビジネスモデルも従来とは異なる発想や立案検討、構築が求められています。具体的にはデジタルプラットフォーム、APIエコノミー、スマートインダストリーなど革新的な事業形態が続々と進展しています。また、スタートアップ(起業)はこのような時代背景のもとに多くのチャンスが存在します。このことは、デジタル変革がもたらす顧

客価値創造の在り方の転換と言えます。その実装は、デジタル技術の活用はあくまで手段で、顧客が本当に必要としている潜在ニーズに対応すべく、既存概念を払拭して抜本的に解決することであることを示唆しています。

ゼミナールにおいては、学生たちが最新の具体的な事例をもとに学術的理論と具体的な事象をつなげて研究学修を行うとともに、個人ではなくチームで学生同士が相互研鑽するスタイルで熱意と活気にあふれた研究活動を行っています。

鈴木宏幸

経営学部 経営学科 教授
東京都立産業技術大学院大学産業技術研究科修了、修士(創造技術)。主に経営戦略論、組織行動論等を担当。専門は新規事業戦略、デジタル戦略、スタートアップエコシステム等。



●短期大学部 幼児教育・保育科

人との関わりと学生の学び

1年生の基礎造形の授業では、最初に大きなこのぼりを協同制作することにしてあります。入学して間もない時期は、人間関係が構築されておらず、彼らが個々に持つコミュニケーション能力を見ることができます。また、知らない人と協力して問題に取り組むという事は、就職した際の状況に似ていると言えます。

3回の授業で完成させますが、2回目の授業の初めに「本当に難しいのは、自分の力を発揮することではなく、輪に入

れない子にどうやって参加してもらえます」と、学生たちに話します。すると、自分ができることについて考えるのではなく、各々の意識が全体に向きます。役割を振るということは、先を見通して何をすべきかを考え、把握しなければなりません。授業では何度かこうした協同的活動の機会を作っています。人との距離が近い職場だからこそ、人との関わりについて学べる環境を作らねばと考えています。

加藤克俊

短期大学部 幼児教育・保育科 准教授
2013年本学着任。2015年第1回このは美術館開催。
2017年ちいさな黄色い手紙プロジェクト実施。
2018年とよた子育て総合支援センターに作品寄贈。



●短期大学部 キャリアプランニング科

望ましい《環境》は誰がどのように決めるのか？

「自然の社会化」をテーマに社会的な観点から研究を続けています。自然の社会化とは、人間や社会が管理する対象と考えられてこなかった“自然”あるいは“野生”的な存在が、政治や政策などの分野で「人間が管理すべき対象」として捉えられるようになることです。例えば河川は豊かな実りをもたらすと同時に、水害として人々の命や生活の脅威でした。そのため、河川は古い時代から管理が繰り返し試みられてきました。時代

が下ると管理の対象とみなされる“自然”は拡大していきます。公害の時代には空気や土壌の質だけでなく、見えない(騒音や振動も規制の対象になりました。近年の気候変動(温暖化)問題では、大気や気候という昔では考えられないスケールの管理が求められています。

自然の社会化の背景には、社会問題が存在し、問題の把握や管理には政治技術だけでなく、科学技術が用いられています。こうした社会と科学が交差

辰巳智行

短期大学部 キャリアプランニング科 講師
静岡大学情報学部学術研究員等を経て、2021年4月に着任。環境社会学、社会調査、情報リテラシー。

する過程に注目しながら研究しています。



2021年度 新任教員紹介

保健医療学部 理学療法学科
助教 塚田晋太郎 | Tsukada Shintaro
研究分野/神経系理学療法学、バイオメカニクス

保健医療学部 理学療法学科
助教 柳田頼英 | Yanagita Yorihide
研究分野/ライフサイエンス、リハビリテーション科学、呼吸器内科学、呼吸器外科学

保健医療学部 看護学科
講師 村瀬ゆかり | Murase Yukari
研究分野/母性・助産学分野

保健医療学部 看護学科
講師 井上直子 | Inoue Naoko
研究分野/基礎看護学、看護管理

保健医療学部 看護学科
助教 石田都乃 | Ishida Satono
研究分野/母性・助産学分野

保健医療学部 看護学科
助手 渡邊富士子 | Watanabe Fujiko
研究分野/看護学

保健医療学部 看護学科
助手 米津貴子 | Yonezu Takako
研究分野/臨床看護学

経営学部 経営学科
教授 鈴木宏幸 | Suzuki Hiroyuki
研究分野/人文・社会、経営学、組織行動論、経営戦略、スタートアップ、ビジネスモデル

経営学部 経営学科
准教授 田邊正 | Tanabe Tadashi
研究分野/税務会計、税法、農業会計

短期大学部 キャリアプランニング科
講師 辰巳智行 | Tatsumi Tomoyuki
研究分野/社会学、社会調査、環境社会学

コロナ禍の 卒業式・入学式。 分散して開催

2020年度卒業式、2021年度入学式は、コロナ禍での開催ということから、感染予防における3密対策を徹底するために、学部・学科ごとに時間と場所を分散して開催しました。

卒業式は3月18日に開催し、329人の卒業生を送り出しました。式典は午前と午後に分散させ、午前の部で、保健医療学部理学療法学科と看護学科、経営学部、大学院を、午後の部で、短期大学の式を実施し、卒業生代表

の言葉は、学部・学科ごとに行われました。理学療法学科の卒業生代表を務めた間瀬史奈さんは、コロナ禍における戸惑いや不安を乗り越え、この日を迎えられることに感謝し、「大学生活で得た知識や技術、感性などを生かし、地域に貢献できるよう努力を重ねていきたい」と誓いました。

入学式は4月1日に行われ、短大から大学院まで計308人の新生を迎えました。伊藤晴康理事長・学長は式辞で「本学の提供する様々な学びの機会を活用して、何事にも全力で取り組み、充実した学生生活を送られることを期待する」とお祝いの言葉を述べました。

いずれの式も参加した保護者は別

会場でのライブ配信を視聴しました。



2020年度卒業式（3月18日）



2021年度入学式（4月1日）

保健医療学部 看護学科 「実習指導に関する 研修会」開催

7月5日、保健医療学部看護学科で、「実習指導に関する研修会」を開催し、実習施設の臨地実習指導者と本学教科員が参加しました。

本研修会は、臨地実習での教育の質向上と、地域での臨床看護の質向上を図ることを目的に毎年開催しています。

昨年度は、COVID-19を考慮し中止しましたが、本年度は対面とZOOMを併用して開催しました。

テーマを「改めて臨地実習指導の基本について考えるー学生をはぐくむ臨地実習指導とはー」とし、関西医科大学看護学部・大学院看護学研究科の安酸史子教授にご講演いただきました。

安酸史子教授は、経験型実習教育について、具体的な事例を交えながら講演。参加者にとっては、今後の臨地実習指導に活かされるだけでなく、日々

の実習指導を振り返る機会にもなりました。また、臨地実習指導者と教員間の関係性の構築や連携の重要性を再確認できました。



まちなか 図書館

豊橋市の中心市街地 活性化を担う 「まちなか図書館」を応援

短期大学部キャリアプランニング科の瀧崎ゼミナールは、ゼミのプロジェクト活動を通じて、豊橋市の中心市街地活性化を担う「まちなか図書館」を応援してきました。その図書館がいよいよ2021年11月27日にオープンします。

瀧崎ゼミが、豊橋市の新しい図書館「まちなか図書館」について知ったのは4年前。市が開館に向けて情報発信を始めたころでした。ゼミ生たちは、「地域の大学として何かできないか」と「勝手

にまちなか図書館応援隊」を立ち上げ、「若者の図書館利用を通じて街中の発展や活性化に貢献する」ことを目的に活動。そのなかで「どういう機会に人は集まるだろうか」を考え、ゼミ生たちは豊橋まつりへの参加、学園祭への出店、ワークショップの開催などを通じて、人が集まることで生み出される様々な力を体験しました。また、同図書館の館長を始めとする地域の人たちとの交流を図り、人とのつながりを広げていきました。



「わかば補助金」採択事業です

今年度はオープンに向け、「勝手にまちなか図書館応援隊」独自の手法で、学生目線によるPR活動を行い、「まちなか図書館」の魅力を発信していきます。

また、オープン後も、「まちなか図書館」と連携しながら、若者たちに図書館を利用してもらうきっかけづくりに取り組み、豊橋駅周辺の発展や活性化に向けて活動していきます。



豊橋創造大学

保健医療学部 理学療法学科
保健医療学部 看護学科
経営学部 経営学科

豊橋創造大学短期大学部

幼児教育・保育科
キャリアプランニング科
専攻科福祉専攻
公務員別科

豊橋創造大学大学院

経営情報学研究科 起業・経営情報専攻
健康科学研究科 健康科学専攻

